

宮城県感染症発生動向調査情報(第26週)

宮城県【平成26年07月03日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

— 2014.6.23 ~ 6.29 ・ 第26週 —

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							仙 台 市				宮 城 県 (含む仙台市)			
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第23週	第24週	第25週	第26週	
水痘	2 0.40	11 1.10	8 1.60		2 0.67	3 0.60	3 1.50	20 0.77	49 0.84	1,184	○→	○→	○→	○	
流行性耳下腺炎					2 0.67			15 0.58	17 0.29	322	→	→	→		
百日咳											→	→	→		
感染性胃腸炎	19 3.80	25 2.50	5 1.00	6 3.00	20 6.67	17 3.40	9 4.50	175 6.73	276 4.76	12,649	◎→	◎→	◎→	◎	
手足口病		1 0.10	1 0.20				1 0.50	4 0.15	7 0.12	51	→	→	→		
伝染性紅斑	4 0.80	11 1.10	11 2.20	6 3.00	16 5.33	19 3.80	32 1.23	99 1.71	1,228	◎→	◎→	◎→	◎		
突発性発しん	5 1.00	5 0.50	14 2.80		4 1.33	5 1.00	2 1.00	22 0.85	57 0.98	949	○→	レ→	○→	○	
ヘルパンギーナ	1 0.20	4 0.40		1 0.50			1 0.50	2 0.08	9 0.16	34	→	→	→		
インフルエンザ	2 0.25			1 0.33		1 0.13		4 0.04	28,902	レ→	→	→			
咽頭結膜熱	1 0.20	14 1.40				3 0.60		31 0.53	354	○→	レ→	○→	○		
流行性角結膜炎	1 1.00	1 0.33					1 0.17	3 0.25	71	→	→	→			
急性出血性結膜炎											→	→	→		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20 4.00	19 1.90	5 1.00	1 0.50	13 4.33	7 1.40	2 1.00	70 2.69	137 2.36	3,584	◎→	◎→	◎→	◎	
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	1 1.00							1 0.08	10	→	→	→			
無菌性髄膜炎											→	→	→		
マイコプラズマ肺炎				1 1.00			1 1.00	2 0.40	4 0.33	226	→	→	→		
クラミジア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→		
RSウイルス感染症						2 0.40		6 0.23	8 0.14	333	→	→	→		
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)			7	3		2				◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向				
	川崎病	2									【週報の詳報】宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansenshou/				
	不明発疹症						3								
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※								52						

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求められることになりました。

今週の全数報告疾病

- 1類感染症：報告なし
- 2類感染症：結核
 - 栗原管内 男性1名(第25週)
 - 石巻管内 男性1名
 - 仙台管内 男性1名、女性1名
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症(O157)
 - 仙台管内 男性1名、女性1名
 - 腸管出血性大腸菌感染症(O26)
 - 仙南管内 女児※2名
 - 塩釜管内 男児※1名
 - 腸管出血性大腸菌感染症(OUT)
 - 大崎管内 男性1名
- 4類感染症：レジオネラ症
 - 仙南管内 女性1名
 - 仙台管内 男性1名
- 5類感染症：報告なし

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 0例

今週の感染症のコメント — 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 —

【伝染性紅斑】
大崎、栗原、登米、石巻管内で警報継続中。

【病原体検出情報】
～宮城県保健環境センター～
腸管出血性大腸菌感染症患者より
大崎管内のO26関連 第26週採取分 OUT 1件

～仙台医療センターウイルスセンター～

	第24週採取分 (6.9～6.15)	第25週採取分 (6.16～6.22)	第26週採取分 (6.23～6.29)
インフルエンザウイルス(解析中)	0件	0件	1件
バラインフルエンザウイルス3型	4件	0件	0件
ヒメタニューモウイルス	4件	4件	3件
RSウイルス	1件	2件	1件
アデノウイルス	3件	1件	0件
単純ヘルペスウイルス	0件	1件	0件
サイトメガロウイルス	0件	1件	0件

【腸管出血性大腸菌感染症】
ペロ毒素を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症で、O157やO26、O121、O103などタイプの異なる大腸菌がある。今週も仙南、塩釜、大崎、仙台管内で患者報告があり、夏季の流行期には増加が予想されることから今後の発生動向に十分注意が必要である。
予防法などについては、宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室HPへ
<http://www.pref.miyagi.jp/situkan/kansenshou/daichoukin.htm>

インフルエンザ関連情報 (患者報告年齢別割合)

報告週	年齢群											総数 (人)
	0～4歳 (%)	5～9歳 (%)	10～14歳 (%)	15～19歳 (%)	20～29歳 (%)	30～39歳 (%)	40～49歳 (%)	50～59歳 (%)	60～69歳 (%)	70～79歳 (%)	80歳～ (%)	
2014年 第23週	18.2	18.2	27.3	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	11
第24週	14.3	42.9	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
第25週	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	5
第26週	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	4

インフルエンザ定点

インフルエンザ定点とは、小児科定点と内科定点を合わせたもので、県全体で93定点(県:51、仙台市:42)となっています。

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第24週)

(国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ：定点当たり報告数は第17週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(5.67)、鹿児島県(0.57)、山形県(0.44)である。RSウイルス感染症：報告数は221例と2週連続で減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約78%を占めている。咽頭結膜熱：定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。富山県(1.76)、福井県(1.45)、石川県(1.38)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。福岡県(4.09)、新潟県(3.84)、鳥取県(3.74)が多い。感染性胃腸炎：定点当たり報告数は3週連続で減少した。島根県(9.61)、大分県(9.53)、愛媛県(9.51)が多い。手足口病：定点当たり報告数は第20週以降増加が続いている。大分県(5.08)、宮崎県(4.25)、鹿児島県(2.29)が多い。百日咳：定点当たり報告数は減少した。大分県(0.19)、長崎県(0.16)、愛媛県(0.14)が多い。ヘルパンギーナ：定点当たり報告数は第19週以降増加が続いている。山口県(3.85)、熊本県(3.78)、大分県(3.06)が多い。マイコプラズマ肺炎：定点当たり報告数は増加した。福島県(2.14)、青森県(1.17)、富山県(1.00)が多い。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)：定点当たり報告数は第21週以降減少が続いている。32都道府県から95例報告があり、年齢別では0歳(9例)、1～4歳(73例)、5～9歳(10例)、10代(2例)、60代(1例)であった。

※ 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内数字:定点当たり報告数